

特設展示 「武器をアートに」

「アジア・アフリカ難民・避難民展」の特設展示「武器をアートに」およびメディア展示は、「平成30年度国立民族学博物館公募型メディア展示」事業の支援を受けました。

特設展示「武器をアートに」へようこそ



アフリカ・アジア・ラテンアメリカのさまざまな地域で起きている紛争は、難民や武器を大量に生み出し、社会全体を混乱に陥れました。紛争を生き延びた人びとは、ともすれば「悲惨で可哀想」という一方的で誤ったイメージを付されますが、彼・彼女たちの生活に目を向けると、困難な

なかでも平和を力づくよく希求し、生活を立て直そうと努力している姿があります。特設展示「武器をアートに」の企画は、そうした人間の力をアフリカ南東部のモザンビーク共和国の人たちから学びたいという思いで実現しました。

モザンビークは1975年にポルトガルから独立し、社会主義路線をとりました。しかし、東西冷戦の最中、独立直後から社会主義陣営の拡大を望まない白人政権下の隣国・南ローデシアや南アフリカが介入して作り出した反政府勢力陣営との内戦が勃発しました。その結果、東西冷戦の代理戦争を象徴するかのように両陣営に多くの武器が流入しました。1992年に内戦は終結したものの、武器は民衆の間に残ったままでした。

ここに展示してあるアートは武器で作られています。この武器は、民衆が実際に保持していたものを鋏や自転車などと交換して回収したものです。「銃を鋏に」プロジェクトと呼ばれる、この回収運動は、モザンビークの人たちが自らの未来のために始めたもので、回収された一部を使ってモザンビーク人アーティストが武器アートを制作しました。

この特設展示を含む「アジア・アフリカ難民展」は、「平成30年度国立民族学博物館公募型メディア展示」事業の支援を受けて実現・充実しました。貴重な作品・資料をご提供下さった国立民族学博物館（大阪）には、この場を借りて感謝の意を表します。

2018年9月 プロジェクト代表

石井洋子

聖心女子大学グローバル共生研究所所員・人間関係学科教員

愛のメッセージ

フィエル・ドス・サントス
マプト市（モザンビーク）2018年
えひめグローバルネットワーク寄贈
Message of Love
Fiel dos Santos
Maputo, Mozambique 2018
Donated by Ehime Global Network

皆さんの目の前にあるアート「Message of Love」は、武器で作られています。アフリカ南東部のモザンビーク共和国の人たちが実際に内戦で使用していたものを鋏や自転車などと交換して回収したものです。

「銃を鋏に」プロジェクトと呼ばれる、この回収運動は、モザンビークの人たちが自らの未来のために始めたもので、回収された武器の一部を使ってモザンビーク人アーティストのフィエル氏が「愛あふれる平和な社会になるように」との想いを込めて制作しました。

モザンビークでは、ポルトガルから独立（1975年）した直後に内戦が勃発しました。社会主義路線をとる新政権と、それに抵抗する勢力との戦いです。その結果、東西冷戦の代理戦争を象徴するかのように、外国から数百万個とも言われる武器が流入したのです。

1992年まで続いた激しい内戦を生き延びた人たちは、ともすれば「悲惨で可哀想」というイメージを付されますが、困難ななかでも平和を力づくよく希求し、生活を立て直そうと努力している姿があります。

私たちは、そうした人間の力をモザンビークの人たちから学べるのではないのでしょうか。





セントワーク（杉本龍司）2012年
国立民族学博物館蔵

特設展示 **武器をアートに** Transforming Arms into Art

特設展示「武器をアートに」では武器で作った6つのアートを紹介し、アフリカ南東部のモザンビークでは独立後の内戦で国外から大量の武器が流入しました



セントワーク（杉本龍司）2008年
スエーデンのグロブナルネットワーク蔵



マスターワーク（杉本龍司）2002年
国立民族学博物館蔵



1995年、その武器を鎖や自転車などの生活用品と交換した「銃を鎖に」プロジェクトと呼ばれる回収運動がモザンビーク国内で始まりそこで回収された武器の一部を使って同国のアーティストが武器アートを制作しましたこれらの作品とおして、困難な状況に立たげんじめるのではなく自分たちの未来を作り出そうと平和を求めし力強く生きようとするアフリカの人びとの様子を感じていただければと思います

聖心グローバルプラザ **BE*hive** 展示 + ワークショップスペース

開催日・時間
月～金：10:00am～6:00pm
土：11:00am～4:00pm



自ら「気づき、学び、行動する」開発の場へ

BE*hiveでは、世界に今ある、さまざまな現実・課題を五感で知ることが出来ます。「なぜこのような問題が起きたのか？私たちがどう関わっていくのか？」といった探求心が芽生えるような問いかけを通して、自分なりのアクションを見つけることのできる空間です。



聖心女子大学4号館 聖心グローバルプラザ
BE*hiveはワークショップも開催
ブリック記念ホールでは各種イベントも開催

聖心女子大学
グローバル共生研究所
Sacred Heart Institute for Sustainable Futures (SHSFI)

150-8938 東京都渋谷区広尾4-2-24
聖心女子大学4号館 聖心グローバルプラザ
phone: 03-3407-5811 (大学代表)
e-mail: kyosei@shsfi.sacred-heart.ac.jp
HP: https://kyosei.u-sacred-heart.ac.jp/

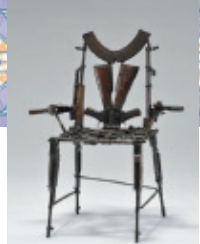
Displaced People in Asia & Africa

聖心グローバルプラザ
BE*hive
展示 + ワークショップスペース

アジア・アフリカの 難民・避難民展

2018年9月17日[月]—2019年3月15日[金]まで
聖心女子大学4号館/聖心グローバルプラザ

主催●聖心女子大学グローバル共生研究所
特別協力●国立民族学博物館/特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
※平成30年度国立民族学博物館
公募型メディア展示事業
||| 入場無料 |||



マスターワーク（杉本龍司）2012年 国立民族学博物館蔵
※2018年10月31日から2019年3月15日まで開催する小アートのパネル、複製作品を展示します。

特設展示 **武器をアートに** Transforming Arms into Art ～2019年4月27日(土)まで

聖心女子大学
グローバル共生研究所
Sacred Heart Institute for Sustainable Futures (SHSFI)

※2018年10月31日から2019年3月15日まで開催する小アートのパネル、複製作品を展示します。



ここは、出会いの空間。
素直な気持ちで、世界と向き合うための場所。
小さな羽音の集まりが、
いつしか世界とつながる勇気になるだろう。

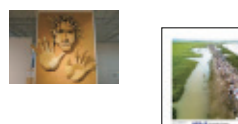
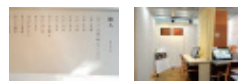
This is the space for encounters.
A place to face the world with genuine feeling.
A place to grow, to learn, to be inspired.

BE*hive
展示 + ワークショップスペース

展示品の一部抜粋



展示とワークショップの場であるBE*hiveではおおよそ2年ごとにテーマを設定し半年ごとに小テーマを定めていますみなさまが繰り返し来訪し出会いと学びを深めていただくことを期待します今回の展示テーマは、「アジア・アフリカの難民」ですここでは、タンザニアにあるニルグス・キャンプとバングラデシュのロヒンギヤ・キャンプに暮らす人びとの様子を展示しています皆を開き、日雇で労働し、子育てなどをしながら難民キャンプに暮らす人びとは日々をたくましく生活しています



聖心女子大学 グローバル共生研究所 Sacred Heart Institute for Sustainable Futures (SHSFI)



Displaced People in Asia & Africa アジア・アフリカの難民・避難民展

聖心女子大学グローバル共生研究所
特別協力●国立民族学博物館/特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク
※平成30年度国立民族学博物館
公募型メディア展示事業
||| 入場無料 |||